

葛工！スポーツ



令和元年 11月5日

発行

ピンチのときに、
気品を持とう！新生
バスケットボール
部始動！



近ごろ、スポーツの世界が熱い。東京オリンピックのマラソン&競歩の開催地変更の衝撃をはじめ、ラグビー、野球、バレー、バドミントン等々……。ハッチこと八村塁が大活躍の、バスケットも目がはなせない。日本時間10月31日、今シーズン自己最多の23得点を決め、ワシントン・ウィザーズ の八村塁は、輝かしいホーム戦デビューを飾った。

さてハッチの大活躍に負けず、葛西工業バスケットチームの活躍ぶりからも目がはなせない。新チームとして初めての公式戦は10月20日。一回戦・対インディアンインターナショナルスクール戦は、**137対25** ○ 次いで10/27 二回戦・都立戸山高校は、残念ながら107対38 ●という結果でした。

*

「課題点を克服して、来年4月の関東予選に向けてがんばります！」というメッセージを、新チームからいただいた。ここで新チームへ向けて、男たちの世界を描き続けた、アメリカの小説家アーネスト・ヘミングウェイの言葉を贈ろう。諸君の今後の健闘を祈る。

- 勇気とは、窮地（ピンチのこと）に陥ったとき、見せる「**気品**」のことである。
→ ただ勝ちやいいってもんじゃないんだよ。「気品」を見せる余裕がなくっちゃ。
- 今いる場所から逃げても、**自分から逃げることはできない。**
→ 似たようなことばは、ほかのひとも言っているけれど、『日はまた昇る』より。
- 毎日が新しい日だ。幸運であるに越したことはないけれど、堅実に行く方がいい。**そうすれば運が向いたときには、準備が完了しているものだ。**
→ これは代表作『老人と海』の一節より。ただし運はいつ訪れるか分からない。